二四、視察者のいろいろ

何しろ十有六年もかゝつた丹那トンネルであり、其の間新聞や雜誌で色々に噺し立てられた工事であるだけに、參觀、視察、見學と來る人々の數は素晴しいもので、係りの者は案内に忙殺される有樣で、これには相當閉口しました。工事に着手後五六年たつてからです、兩口詰所とも芳名簿を備へつけましたが、今日部厚な洋罫紙のものが六冊出來上りました。

鐵道大臣として、職務上來られた大臣は小川平吉氏が二回、三土忠造氏が一回であります。政務次官、次官、局長は數へ切れぬ程來られました。大臣の現職でなく嘗て大臣として關係された方で、見えたのが後藤新平伯、元田肇氏であります。斯界の大先輩である古市公威男も來られましたが、來られる前に、所報や報告類を充分讀まれて置いて來られてから、その内容に就いて疑問を種々質問されて係員が面喰つたこともあります。尙芳名簿を繰つてみますと古い處で參謀總長として上原元帥も見えて居ります。芳名簿にのらない學校の學生生徒迄を數へ擧げたら、恐らく訪問者は數萬人にも上る事でせう。

池原所長の頃ですから昭和二年でせう、或る日不意に、案内もなく老人の方が所長室に入つて來られました。よく見ると後藤新平伯で、トンネルの樣子を詳しく聞かれて、歸つて行かれました。最初の熱海線の計畫者として、伯爵はトンネル工事に多大の關心を持つて居られたのでせう、熱海にこられたついでに工事の樣子を聽きに來られたのです。

參觀者の中では團隊式の訓練が行き屆いて居る軍人を案内するのが一番樂でした。案内者の後から順々について來て、案内者が說明すると口傳へに後の者に「申し送る」ので說明も徹底するし又一人二人離れ〴〵になつて、案内者に世話をやかせる事も絕對になく、さすがは規律の軍隊だといつも感心します。

昭和三年時分、熱海口が九千呎を過ぎた頃です。湧水がとても劇しく、水拔坑内の水は急流の樣な勢で、深さも膝を沒する位でしたから此の中でトロを押すのを樂にする爲、丸太を横に渡して、其の上にトロの線路を敷いたことがあります。此の頃參觀に來た人は、已むを得ず、足場の惡い此のレールの上を渡らなければなりませんでしたが、天井が低いので、身體をかゞめ乍ら、行かなければなりません。ですから、能く足をふみはづし、時には轉んで、びしよ濡れになることがありました。坑外に出て來てから、汽車の時間までに乾すのが間にあはないので閉口しました。詰所の者がシヤツ、靴下、猿又などを賣つたら、儲るな、と笑つたことがありました。參觀者の御難時代です。

元所長の中村さんが建設局長の時代です。工作局長だつた秋山さんと一所に現場視察に來られたことがあります。當時溫泉餘土の個所が工事中で、鐵枠を組んだ坑道が押されて狹くなりましたから、入坑者はともすると、頭をゴツンとやります。中村さんも秋山さんも頭の光るのでは省内でも、ひけをとらない方です。例の硬い麥藁帽子を冠つて入坑されたのですが、此の難所でゴツンゴツンとやられたのでせう、外に出て來られたら血がにじんでた

と云ふ話も有名です。

昭和二年でしたか各省の政務次官の方々が見えられまして、トンネルを見學して行かれました。それから一週間立たない中に政變が起つて内閣が變りました。其の翌々年鐵道大臣が貴族院と衆議院の議員を招待せられて、トンネル工事を見に來られました。所が、此の時も間も無く政變がありました。其の次にも、亦同樣な事があつたので何處からともなく大臣や次官が丹那トンネルに行くと、内閣が瓦解するとの流言がぱつと廣がつて、それからは偉い人達も餘り揃つて來られることがなく、丹那トンネルは一寸敬遠された形でした。

此頃は熱海もすつかり遊覽地氣分となり、町の風紀も時々問題になる位ですから、參觀に來る者の中に宿屋でくつろいだ遊山氣分で、ドテラを引つかけて見世物でも見る氣で、參觀に來る者が時々あります。或時の事でした。こんな連中が十數名でやつて來たので、癪にさはり手きびしく謝絶して了ひました。其の日係員の一人が用事があつて汽車に乘ると、丁度此の連中が同じ汽車に乘り合せて、醉つ拂ひ乍ら、どうも建設事務所は官僚的で怪しからんと、氣焰を擧げて居るのです。係員も初めは知らぬ顏で聞いてましたが、とうとうたまりかねて此の一行の中に割り込んで「一體君達は工事を見世物と心得て居るのか、トンネル内では勞働者達は身命を賭して眞劍に働いて居るのだ、毎日爆彈三勇士の勇敢な作業をして居るのだ。玆に來るのに浴衣やドテラ掛とは何事ですか」と詰つて大にあやまらせたこともあります。

熱海の名所案内を見ると「丹那トンネル迄七丁」等と出て丹那トンネルは、もうすつかり名所の中に擧げられて居ります。或る日、工事に全く素人の人が紹介も無しにいきなりトンネルを見せて呉れと言ふので、只さへ參觀者の多い所にかう云ふ面白半分に來る人は甚だ困りますから、斷りますと「丹那トンネルは名所の一に載つて居るぢやないか、その名所を見せないとは怪しからん」と威丈だかに怒鳴られて詰所の猛者連も呆氣にとられたこともあります。劇しいのになると宿屋から電話で丹那トンネルの入場料はどの位ですかと問合はせて來たのがあります。

春秋の遠足季節には小學校の生徒連も能く訪ねて來ました。梅園への道すがら、坑門上の山神樣あたりで先生がトンネルのことを生徒に説明するのを聞いてゐますと、實に面白く話して呉れます。從事員にとつてのいゝ氣晴しです。

昭和五年の秋の萬國工業大會の時でした。本會議に出席したニューヨーク地下鐵道工事の技師長ロバート・リツヂウエー氏を熱海に招待して丹那トンネル工事上の意見を聞いたことがあります。リツヂウエー氏は特別に親日な米國のエンヂニヤーの一人で、日本から米國へ視察に出掛けた土木技術者の多くが此の人の世話になつて居ます。殊に鐵道省から出掛ける土木技術者は、古くから毎年いれ代りたち代り同氏を訪問して、視察調査紹介其他色々の方面で、同氏の厄介になつて居ります。劇務の裡をいやな顏一つせず、實に氣持よく親切に面倒を見て呉れます。誰れでも一度同氏を知つた者で其の厚意を感謝しない者はありません。大會を機會に、今迄何回か氏の觀光をすゝめたことが漸く實現したのでありますから、皆は心から氏を歡待しました。こんな關係で、同氏を丹那トンネルに迎へることは、甚だ意味深いことでありました。實地につき工事の方法等につき色々意見を交換しましたが、多年

パドソン河底其他の世界的な難工事で苦勞した斯界のオーソリチーだけに、短時間の視察に係らず、之れ位本工事を了解して見て行つて呉れた人も一寸ありませんでした。